
Alchemist farthest ~最果ての錬金術師~

ティ・ラ・アイメリッタ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Alchemist farthest (最果ての錬金術師)

【NZコード】

N3988V

【作者名】

ティ・ラ・アイメリッタ

【あらすじ】

病死したはずの僕がひょんなことから記憶を引き継ぎ、更に特典まで貰つて転生するお話

終りの始り（前書き）

懲りもせぬまた新たな作品に手を付けてしまいました

アイテアは浮かべどモチベーションがあがらずそのまま放置
といつ可能性が無むにしも非ずですが

たまーに更新していくたいと思ひますので今後もよろしくお願いします

では、お楽しみ頂けたら幸いです

終りの始り

ああ、閉じていく

僕の世界が閉じていく

力が抜けていく

全て抜け落ちて逝く

どこまでもどこまでも墮ちて逝く

これが“死”か

僕は、僕の人生は何を残して何の意味があつたのか
な…

でも、いいや

僕は精一杯生きた

今まで…ありがとう…

ここは?

僕はいつたい？

“起きたようだね”

えっと、あなたは？

“ふふ、大丈夫だよ。君の疑問には全て答えてあげる”

えっと、ええと…

“落ち着いて、ゆっくりと現状を把握していこうか”

スーパーと深呼吸をして僕は少しでも気持ちを落ち着けようとし
てみた

僕は病氣で…

“うん。そうだね、君は君の自覚通りあの時死んだよ”

じゃあここは死後の世界？天国？地獄？

“そうだね、ここは死後の世界とも言えるし、そうでないとも言え
る。簡単に言えば私の家だ”

あなたの？

“そうだなあ。解り易く、簡潔に言葉にするならば私は所謂神様つ
て奴になるね”

かみ…さま…

“ とはいってもこれは今言つた様に解り易い表現にしたら私は神様
つてだけさ ”

つまり…何者でもあつて何者でもない…

“ さう君であり、君でない。神であり、神でない。悪魔であり、悪
魔でない。おつと話が随分逸れちゃつたな。まあ私が何者であつて
も君の害になるつもりはないよ。だから気にしないで ”

あ、はい。じゃあ僕はいつたいどうじてここに？

“ うん。やつと核心に入ったね。そうだね、君は死んだ。そして輪
廻に還るといつだつたのを私がたまたま釣上げてしまったのね ”

輪廻に還る…釣上げる…

“ そう、本来なら君はあのまま自我を失つて新たな生命として転生
するところだつたんだけどね、たまたま運良く？いや、悪いのかな
？まあ私の下に来てしまつたわけや ”

ええつとそれで僕はこの後いつたい？

“ うふ。せつかくだから君にきょととしたサービスをあげようかな
と思つてさ ”

サービス？

“ 本当はキャッチ＆リリースの精神でいかないといけないんだけど
ね。まあちょっとした気まぐれさ ”

ええっと、ありがとうございます。

“ふふ、君にあげようつてサービスはね、記憶を持ったまま転生させてあげようとしたものだ。そして君が望むなら他にも幾つか特典を付けてあげようと思つてね。例えばゲームや漫画と等に近似した世界とかね”

えっと、近似した世界つてこいつのは？

“そうだな、ああいつ世界はすでに完結した世界Aと思つてもうえぱいいよ。そこ今まで違う世界で生きてきた君が生まれるとその世界はAからA'に変わるのさ。バタフライエフェクトって奴が関係してくるね。ああ、世界Aの方は気にしなくていいA'はAじゃない。君が生まれたからといってAの世界が消えて無くなるわけじゃない。そうだな、一次創作つてあるだりう~あんな感じだね”

???

“ふふ、じめんよ。余計に解り辛くなつたかな？まあ、気にしないでいいってことさ。ゆつくりと考えるといい。時間はたっぷりとある。それに少し私の相手をしてくれないかな？今まで暇で暇で仕方なかつたんだ”

あ、はい

“ふふ、なかなか楽しかったよ。こんなにおしゃべりしたのは何時

ぶりかな？”

僕も楽しかつたです

“さあ、君の願いも決まったようだし訊かせてもらえるかな？”

ええと、あの転生先はガストっていうゲーム会社のアトリエシリー
ズでお願いします

“うん、いいとも”

あと、あのFate/stay nightっていうゲームに出て
くるキャスターのスキルが欲しいです

“ふむ、道具作成と陣地作成だね？”

はい

“よし、わかつたよ。以上でいいのかい？”

“じゃあ、もしよかつたらどうしてこの世界で、そのスキルがいい
のか教えてもらつてもいいかな”

えつと、あのゲームは基本的に平和な世界だからっていのと、ス
キルはあつたら楽しそうだなと思つたからです

“ふふ、そつか。そうだね、楽しんで生きてくるといい。それが一
番大事だ。じゃあ行つてらっしゃい！”

はい！行つてきます！ありがとうございます！

言葉を交わしたとたんに僕は僕の意識が飛んでいくのを感じた…

さあ、僕の第一の人生が始まる！

01_僕は元気には生きています

「めたとかきにしちゃダメだめよー? だつて… いまさらでしょ
!!」

僕の意識が完全に覚醒したのは僕が5歳になつてからぐらいのこ
とだった。

いや、完全にという表現は正しくないかもしない。

なぜなら僕の意識は急に覚醒したわけではなく少しづつ醒めてい
つたからだ。

急に僕という人格が発生したわけではなく、あくまでこの体の人
格として、性格として、個人として生れ落ちてからすくすくと成長
したのだろうな。

まあ何が言いたいのかと zwar どだ、僕にはこの世界の住人である
といふきちんとした自覚がある。

そうだな、家族を家族として認めるといふのかな?

違和感を感じないといった方がいいのかな?

まあ、前世に引きずられることが無く素直に子供として生きている。

ちなみに、周囲には早熟な子として認知されているようだね。

「おーアリヤひちやんじゅねーかービーフしたんだ?お使いか?」

「おーと、通りすがりのおじさんに話しかけられたや。」

「ほんとにほー。今田は父さんの誕生日だからね。母さんが「お祝い」を作ってくれるんだ!その材料を買ってくるんだよ」

「ああ、わづかにえらいねー。つちのガキとはえらい違いだぜー!」「えへへー。じゃあ、行つてくるねー。ばいばい!」

「ねつー!気をつけて行くんだけー!」

「はーー!」

ふふふ、どうだいこの僕の子供っぽい!

とこつても本当にこれが素なんだけどね。

演技なんかしてなーよ。

僕は少し早熟な正真正銘のガキなのさ。

おひと皿のお皿に着こなした。

「 むち、こりしゃこ。今ロゼビアしたの?..」

「 えつとねー、これとあれ下わこな」

「 はー、鳥腿と手羽先ね。何グラムこるのかな?..」

「 んーと、腿1~2手羽先3~4kgでおねがいします」

「 はーい。1040ペールになります」

「 えつと、はー」

「 はー、1100ペールね。おつりの60ペールよ」

「 あつがとハザラこましたー」

「 うふ。いい子だね。ねえアリアちゃん、今ロゼお母さんビア
たの?お使いかな?」

「 やうだよ。今日は父さんが誕生日だからね。そのお使いなんだ。
母さんは多分今頃ケーキ作ってるんじゃないかなー」

「 もつかー、お父さんも喜んでくれるねー」

「 うふー。じゃあ僕はそろそろ帰るよ」

「 はーい。気をつけ帰つてねー」

帰りの道中も行きと回じよつておじわせや、ねぜせふんせふん。
お姉さんたちとお話しながら帰つてきた。

おねえさんですよー。みなさんおわかれおかれこですよー。

とまあこつもじぬけり平和な町を帰つて来たのや。

「ただいまー！」

「お帰りなさい、アリアちゃん」

家に帰ると母さんはもうケーキを作り終えていたらしく掃除をしていた。

ちよつと遅かったかな?うん、反省。

「はい、戻つて來たよー」

「あっがとう。じゃあメインディッシュを作るわねー。時間がかかるから遊んできなさいー」

「はーい、いつときまーす」

母さんは料理つていつか家事全般が大得意だからなー。晩御飯がとても楽しみだ。

晩御飯はとてもおいしかったです。

ケーキは絶品でした。

ん？いろいろと詠びすぎだつて？いいの！

今回のお話はプロローグに過ぎないんだから！

メタとか気にしないのー今更でしょーー！

01_僕は元気にはまることます（後書き）

今更でしょー！

とこりことで投稿！

さて結構時間かけてるつもりなのになー

どうしてこんなに短いのだろう？

まあ精進あるのみですな

とこりことで引き続かれていく所へ願こしまるよー

02 現状把握は大事なの

——「なぜ僕へ、わたしはだれ？そしていまはいつたいいつなん
だい！？」

今更だけど、僕の名前を教えてなかつたよね？

アリアだる。だつて？

違う違ひ、アリアは愛称や。

そして僕の性別も勘違いしてる人がいるかもしれないから教えて
おこうかな。

「初めまして、アテオリア・カテライトです」

いや、別に誰もいないところに向かって自己紹介してるようにち
ょつと頭の可哀そう子なんかじゃないんだからね！

『めんなさい調子に乗りました。

今、僕は学校に来ています。

まあ寺子屋みたいなもんだと思つてもうればよろしいかと…

そこには今日から通りうことになつたのです。

つまり上記の言葉は挨拶となつておりますよ。

そして今の台詞に趣味と特技をでつち上げて自己紹介をさせていた
だきました。

「画面の前のみんなこは ひ・み・ちゅ

はい」みんなで。また調子に乗りました。

まあ、別に言つぱさじのことでもないから軽蔑をせんせりふまーす。

わい、ちゃんと僕の前には20人ぐらいの僕とみんなに年の変わ
らない子供たちがいらっしゃいますよつと。

「はい、よく出来ました。アテオリア君は今日からここにみんなと
一緒に学ぶお友達になります。みんな仲良くしてあげてねー」

「 」「 」「 」「 」「 」「 」「 」「 」

「 よひしべー」

わい、今アテオリア君って言われたから分かってもらえたと思つ
けど僕は男です。

まあ近所の人たちには小むこ頃からの付き合いつつ奴でアリアち
ゃんつて呼ばれてるわけだ。

そして僕は今6歳になりましたー。

「 」は所謂小学校みたいなものと考へてもうつたらこうよ。

早い子は4歳ぐらいから、遅くて8歳ぐらいからかな？通いだすのは。

一応義務教育みたいな感じでみんなここに通つてはいるみたい。生きていぐのに必要なことを教えてもらつたりするわけさ。

例えば読み書きだね。

他にも四則演算とかいろいろと。

そしてここには実力しだいでどんどん学習内容を進めていくのだ。まず最初に、ここに入るときにテストを受けてその実力に見合つたレベルから教えてもらえるんだよ。

それでさ実は僕、この地がどこだかまだ分かつてないんだよね。

ザールブルグなんかグラムナートなんかアーランドなんか、はたまたアルズだつたりケントースだつたり？もしかしたらゲーム中に名も無かつた辺境の地だつたりするかもしれないね。

とまあそんなわけで6歳となつたことだし僕もここに通つたりとしたわけさ。

「じゃあ今日は文字の書き方、読み方を勉強しますよー」

「　　「　　「　　「　　せーこー」　「　　「

うん、 你まだマスターしてないんだ てへぺる（・^・）

「めんなさい、 またまた調子に乗りました。 反省ー。

「ーん、 テンションがおかしい…

普段はこんなキャラジやないつひとを理解しておいて欲しいな。

わい、 話を元に戻してつと

いや、 少しひらこなら読み書きできるんだよ？

日常的な奴ならね。

だから僕が今から翻訳のまじゅうとした発展系になるわけだ。

わーてちちひちひと覚えてしまいますかー。

「いやー、 疲れたねー」
「ソダネー」

あ、 このカタカナしゃべりの子ですがね、 僕の隣に座つてた子ですよー。

名前はえーと…

「モブ男君！」

「ダレガモブオダツ！？」

「え？ 違つたつけ？」

「テメエナメンナヨ！ オレノナマエハ！ モ「アテオリア君ちょっと
来てください」 「はーい」 チョヅ！ ？ オマー！」

モブ男君なんか言つてたけど先生に呼ばれたので失礼させでもら
つた。

後でモブ男君には謝つておひげ。

「なんですかー？」

「あー、アテオリア君が習いたい」といつこちゅうと訊いた
くてね。『ごめんね、お友達とお話してる最中に呼び出しちゃって』

「大丈夫ですよー。それで訊きたいことって何ですかー？」

「えっと、アテオリア君が特別に習いたいのは地理と歴史と戦闘技
能でよかつたんだよね？」

「はいー、そうですよー」

そり、ソリはアトリエ世界なんだよね、今は片鱗も見当たらぬ

けど。

だから町の外には魔物がいるのや。

外に出るには戦闘技能が必要不可欠なわけ。

「うん。わかったわ。いや、歴史を君みたいな子供が習いたいって
いうのは珍しいからね。確認したかつただけなのよ」

わつわいじがどいか分からないつて言つたよね。

そのことなんだけどさ、僕はもしかしたら時代すら違つんじゃな
いかなと思つてゐるわけなんですよ。

いや、勘なんだけどね？

ただ氣になつたからで、留つてもおこつかなーつて思つたわけです。

違つかつたら違つかつたで別にいいんだけどね。

といつことど、いじはまど、今がいつなのかを僕は知りたいの
です。

— しゅうげきのふあーすとびぶじやなくびじじー・

あれから先生の質問を詰き終えた僕はお腹も空いてきたことだし

帰る」と云つた。

帰り道、他の一緒に勉強してた子たちと別れの挨拶をしていて気づいたことがある。

やつ、モブ男君に謝るのを忘れていたのだよ。

まあ今生の別れじゃないといいかな。

明日から忙しくなるがー！

朝になり、歯を磨いて、顔を洗い、服を着替える最中にゆづやく田が覚めた。

うん、仕方ないじゃない。僕は朝が弱いんだ。

まあ、田も覚めたことだしと母さんの作った美味しい朝食を頂き家を出る。

これが日常になるんだろうなー。

「いってきます」

近所の子たちと道中を共にして行く。

途中すれ違つたおじさんやおねーさんたちに挨拶しながらみんなとなかよく会話を交わす。

ふふ、微笑ましい光景だね？

着いたら今日の授業が始まる。

モブ男君にはきちんと昨日の件は謝つておいた。

「ワカレバインダヨ、ワカレバ」

とか言つてたけどいまいち会話が噛合つてない気がしなかつたのは何故だらうか。

まあ、小さじことを気にしても仕方ないよね。

そろそろ授業だ。

ふう、今日も疲れた。

でも楽しかったよ。

友達もたくさん出来たし、いろいろと知れたしね。

そういうのだ。

これはこいつにどうだったと思う？

びっくりしたよ…

まさか予想が当たるなんてね…

ザールブルグ？グラムナート？ケントース？いいえ

じゃあアーランド？それともアールズとか辺境の地？

とんでもない！

じゃあ何処なんだよー…といつた質問にはいつ答えましょー！

“あのね、ijiはビijidもなかつたの”

うん、えーって思つた。

それでさ、歴史を翻つて氣づいたんだけどさたぶん時代が遙昔
なんだよね…

びっくりだよねえ。

まあ、ijinなつたら仕方ないからそれ以降にせずに生きてijifか…

それでさ、何処でもないとか言つとこですぐに悪いんだけどさ、
地形から判断してなんだけど多分ijiアーランド地方だと思うんだ…

アーランド国が無いから地方つて言い方だけじね、多分あつてる
と思つ。

僕の勘がそう告げている…

と、まあ冗談はおいといてなんだけど、機械とか普通に発達して

るんだよね、今更だけど…

だからさ、以前から違つんじゃないかなーとは思つてたのよ。

そのときは必死にこじは違つ大陸なんだつて言い聞かせてたんだ
けどね。

うん。世界地図見せられたら反論なんて出来ないよ。

文明発達しそぎじゃない?

もうひょっと夢を見せて欲しかつた…

衝撃の事実でした(まる)

02_現状把握は大事なの（後書き）

話が短すぎるための苦肉の策！

本来なら2話に分けるところを1話にまとめることで文字数がなんと2倍に！

最終的な目標は1話につき4000~5000字なのですが書きそ
うにねえー

まあ精進あるのみですな

8 / 4分割表示取り消しました

03_ござれ行け、勇ましく

「これが、ぼくの…ちからだあーーっ！…（笑）

はうー。

前回から5年ほど経ちました。今ではもう一歳です。アリアです。

すよー。

え？ 跳びすぎ？

仕方ないじやないぞ。

勉強して、戦闘訓練してるところの描写なんていらないでしょ？

まあ、あえてこの5年で僕が得たことをあげるならばそうだなあ。

・

僕が機械に詳しくなったっていつのと魔術が使えたってぐらいか
な？

え？ それは描写をきちんと入れるべきだつて？

まあ、確かに大事かもしけないね。

でもさ、機械の方はこの世界に生まれてからずっと親しんできた
ものだしなんか今更感がさ・・・ねえ？

それで魔術の方なのですがツ。

道具作成スキルと陣地作成スキルのどちらにもいえることだと思うんだけど、スキル自体がFacteから持ってきたものじゃない?

自分で考えたものを貰つてきたわけじゃ無いんだよね。

そう、どちらのスキルも魔術師であることがスキル行使の前提条件つてわけ。

道具作成のスキル説明文を思い出せばいいんだけど・・・

道具作成：魔力を帯びた器具を作成できる。

なんだよね。簡潔に言つとこ。

つまり、魔術回路とかが必要になつてくるんだよ。

それでだと思つんだけど、僕の体にありました。魔術回路。

サービスいいよね。

あ、気づいた理由は簡単。

僕つてこの間はおしえなかつた特技つていつか趣味があるんだけ
どや。

おもちゃ作りが好きなんだ。

前世ではそんなことしたことが無かったのに、今はいつの間にかこれが趣味になつてたんだよね。

たぶん道具作成スキルがあるからだろ？

ある日ふとしたときに自分の作ったおもちゃが僕の理想道理の動き方や硬さになつたりしたんだよね。

多分無意識に魔力を使ってたんだと思うんだけど、そういうおもちゃを作った日って体がとても重くなつた気がしたものだよ。

とまあ、そんなこんなで気づいたんだ。

それでさ、話を戻して僕の魔術回路についてなんだけどね、メディアのキャスタースキルを想定して頼んだからか分からないんだけどさ、僕の魔術回路つてすごく質がいいっていうか、回路の本数がずいぶ多いと思つんだよね。

存在に気づいてから、ちょっとびびりながらも魔術回路を起動してみただけどさ、体中痛くてのた打ち回つちゃつて両親に心配かけたりしたんだ。

いや、あせつたわー。魔術回路なめてた。ペ魯ペ魯してた。

想像が甘すぎた。静電気レベルなわけないじやんね。

雷が直撃したかと思つたよ・・・

実際はスタンガンの5倍位の威力を受けた感じかな。くらつたこ

とないけど・・・

ま、まあ想像以上の痛みだつたよ・・・

体が回路の存在を完全に認めてるからだと思ひながら2回田からほ
ちゃんと耐えれたよ。

スイッチを作つたからかもしれないけどさ。

ちなみにイメージは最初の痛みをもあつてか落雷となりました。

それでまだ慣れてないから詳しくは解んないんだけどさ。

さすがに今はまだ道具＆陣地作成のスキルランク低いんだけど、
頑張ればたぶん超一流まで届くって感じ。

へたしたらメディア超えちゃつたりしてね。わははー。

つて笑えねー。確かAランクで擬似的な不死薬だったでしょ？

鍊金術つて簡単に言えば道具作成じやない？

しかも行き着くところに不死薬やら若返り薬やらがあるし・・・

本当にAランク超えちゃうかも・・・

まあ、何はともかくだ。どうも今はロランクぐらいかな？

このスキルはおこおこ伸びていけば良いやつで

とりあえず大事なのは魔術回路が具わっていることだからね。
いや一回路を体になじませるのにいっぱいの5年だったよ。

なじませるのに時間を使いすぎて特に語ることは無いぐらいにね。

そういうば魔術基盤とかどうしたんだろーね？

まあ基盤 자체はもともとあって、今まで僕以外に使った人がいかつたのかなと素人ながらに予想をしててはみるけれど。

そして僕はこのFatte式魔術を誰にも教えず、秘匿し、魔術基盤を独占する気満々であります。

つていうか多分今後も使える人なんていないだろうしね。

教えるだけ無駄でしょ・・・

それに今まで言ってこなかったけどこの世界にはこの世界の魔法があるしね。

アトリエ式魔法、僕も戦闘技能を学ぶときにはこの世界の魔法

ちゃんと使いこなせるし。

機械と魔法の両文明が発達してゐるのです」によね。

高度に発達した科学／魔法は魔法／科学と区別がつかないついで、言葉があつたけれど、「この世界はきちんと別々に発達してゐるよ」と思つんだよね。

いや、勘だけど・・・

と、まあそんなこんなで驚きのスキルを会得しつつ僕は戦闘技能を履修完了したわけだ。

だから今日から僕も一人の冒険者として生きていいくよ。

「父さん、母さん行つてきますー！」

「ああ、行つて来い。いろんなところに行つてたくさん経験をつみ、立派な男になつて来い」

「いつてらつしゃい。危ないことには行つちゃ駄目よ。自分の身の丈にあつたところを冒険しなさい。それと、いつでも帰つてらつしゃい」

「うん。わかった。ありがとうね。行つてくるよー」

「行つてらつしゃい。元気になーね」

こうして得た力を持つて魔術師アリアの旅が今始まる……なんち
やつて

03_これ行け、魔ましく（後書き）

あつむ書いて、 いじら書いて、 設定見直して、 デザ書いてたか分からなくなつて

つてやつてたりむつ話がじりゅうじりゅうになつてしまこよつたわwww
そして毎度の「Jとくみじけえ

読み辛いと思われますが勘弁してくださいせえ

04 | 復習つて大事！

—せこちようするのよ！

さて、僕の戦闘スタイルについて話をしておこうか。

まず、近接に大剣。

あのわ、モンスターハンターってゲーム知ってる？

知つてたら早いんだけど、あんな感じの大剣だと思つてくれれば良いよ。

幸い、もともと身体能力が高かつた上に、魔術による強化で底上げしてるからね。

結構すばやい動きが出来るんだよ。

いやー、最初、大剣に行き当たるまでは鉄塊を振り回してたんだけどね、それを見た鍛冶屋のおっちゃんがさ、

「おらあ職人だ！てめえの満足いくものも作れねえんじや職人の名が泣くぜ！ちよいと待つてろ！－ちゃんとした剣を作つてやつからよー！－！」

って言つて作ってくれたんだ。

オーダーメイドの特別製になるから普通の剣より値が張つたけど実は家つて平民の割りに結構裕福だつたんだよね。

問題なく買えました。父さんありがとう。

ちなみに、子供がそんなもの使えるところに對して別段なんとも思われませんよ？

周囲の人の反応は「ああ、あの子なら仕方ないか」みたいないつも通りの反応でしたもの。ええ。

だから別に泣きそうになつてなんかいないんだからねッ！理解される必要はないもん！

『い、い、ほん。氣を取り直して中距離にこいつか。

中距離は魔法だよ。

アトリエ式のね。

アトリエ式のものを魔法、型用式のものを魔術と分けて区別させていただいておりますよ。

で、魔法なんだけど、簡単に魔力をそのまま撃ちだすものしかまだ使えません。

あつ、魔法での身体強化ってのも使えたわ。魔術に比べて微々たる程度の効果だけさ。

でも、たぶんこれのおかげで大剣使用にそこまで疑問を持たれて

ないのよ。

僕の町に大剣を使用する人がいなかつたっていうだけで、力自慢の冒険者は探せば普通にいるしね。みんなムキムキマッチョなおっさんだけど・・・

つと、話を戻して、魔法はいずれ高威力の炎とかを撃ちだしたり出来るようになるんだ。

僕もそこまでいけると良いな・・・

さて、最後は遠距離だね。

まあ、遠距離って言ひても、今はまだ魔法にあまり頼ることが出来ないから中距離の時点で頼らせてもらいつてるんだけど・・・

さて、遠距離ですが、僕は銃を使わせてもらいつております。

といつても威力はそんなに高くないよ。

威力の高いものは護身用としてとかで貴族なんかが所持しております。

いつか自分で、高威力のものを作つて見せるよ。この道具作成スキルを使用して！

そういういえば身分についても説明してなかつたね。

大まかに分けて王族・貴族・騎士（貴族）・平民となつてあります。

騎士は特權階級で一応貴族として名を連ねるつて感じかな。

まあ、もともと騎士になるのは貴族出身者が多いからその辺あたり気にしなくていいと思うよ。

それで基本的に王政がどこの国でも敷かれているのぞ。

ああそつだ、ゼロの使い魔つて知つてる？

あんな風に貴族が俺様が一番偉いんだぞーつてやつてるわけじゃない。

確かに権力をかさに悪事を働く奴もいるけど、そんなのこへ一部だし。

アトリエ世界感溢れる信頼と実績の政度だよ。

優しく、気安く、生き生きとみんな生きてる。

さて、ここまで脱線しつつも僕の戦闘方法を語つていたわけだけ

ど、今現在基本的に頼れるのは近接戦闘だけなのです。

他はみんなお粗末なのです・・・

しかも、その近接戦闘に関しては、まだマジックだけで上手ではないのです。

なぜなら僕は頭脳労働のほうが得意だからー。

僕が冒険者として旅に出る理由は、鍊金術を学びたいというのと、好奇心によるものですよ。

ええ、鍊金術。鍊金術士が周りにいなかつたので今まで学べませんでした・・・

風の噂すらも聞かなかつたけど、きっとビビンかにいふと信じてー。僕は旅立つのです！！

そう、アトリエ世界に来た理由の8割がこれにあたるところでも良いでしょ？

学びたい、好奇心旺盛なのですよ、僕は。

いろんなことを知りたいお年頃なのです。

そんなこんなで僕の知識を得、師を仰いでの成長ストーリーが始まるー（そんな風に考えてた時期が僕にもありました…）

—やつてみなくいや わからなー！

冒険者として、初めての経験を僕は今つむじとになる。

↙↙ウォルフ

ええ、最初はプニージャね？と思つたけど仕方ないじゃない。

僕は悪くない！僕は悪くない！…ちやんとトリトリーに入らない
よひに注意だつてしてたんだから…。

と、血几弁護はほどほどにして冷静に状況判断をだな・・・

お腹が空いてるのか必死にひつちを追いかけてくるんだもの。

逃げ切れなかつた・・・

幸いはぐれだつたから一対一ですんだけど。

グルルルツ！

ガウツ！

考えすぎて注意が逸れちゃつた・・・

完全に逃げられないな、よし戦闘だ！

相手と向き合い剣を正眼に構える。

睨み合い、隙の探しあいだ。

一人旅つて難しいな・・・

おつと、また思考が逸れた。

グワァアウ！

逸れた隙を狙つてウォルフが飛び掛つてくる。

追いかけられている最中に嫌といつまじ解つていたけど、すばや
い。

でも、ただ単に突進してくるだけなら何とかなるよ！

「やあつーはあつー！」

ガキンッ！

大剣を盾にガード、ぶつかって怯んだ瞬間になぎ払う！

キャウン！

「今度はこっちの番だ！」

吹き飛ばしたところに追撃をかける。

遠心力を使うから隙は大きいけど、相手もたぶんあまり戦いなれ
てない！

「そのまま」いつのペースで全てを終わらせる！

さつとベテランの人から見たら滑稽に見える剣捌きで必死になつて攻撃する。

子供ではあるけれど、魔術による強化^{ペースト}で大人の、それも冒險者並の膂力を持つてゐる自信がある。

しつかりとあてれば一撃で決まる……はず……

「くひえーー！」

ウォルフも一撃でも決まつたらやばいと仄^{シズ}ついていの^{シズ}か必死になつてよける。

さすがに全部を避けきることは出来ず、末端部分は怪我を負つていふけどね。

それでも、逃げ出そうとせず、たまに反撃しようとするのはさすがだなと少し感心していた。

しかし、いつまでも避け続けることは出来ない。

ついに一撃が決まり、ウォルフは倒れた。

そのことに僕はついに終わつたと氣を緩めてしまつたのだ。反省。

ウオオオオオオオオオオオオオオオオオオンンッツツツツ……！

いつの間にか立ち上がり、これまでとは比べ物にならないぐらいの鳴き声を上げて突っ込んできた。

それを僕は威圧感から動けずに、きっと最期の力を振り絞つてだろつ一撃をうけてしまった。

強化のおかげか、幸い大事には至らなかつたけど、それでも僕は決して小さくないダメージを受けてしまった。

安全な場所に退避し、傷薬を使い癒しながら今回のことを反省する僕である。

魔物の生命力の強さを悔っていたよ。

訓練中、五一と戦つた時にしつかりと教えてもらつたはずなのに。

戦後も気を抜かず常に気を配らなければいけないのに疎かにしていたな。

旅に浮かれていたなんて言い訳は通じない。

今回は良かつたけど次もまた大丈夫だという保証は無いのだ。

気を引き締める必要を痛感したよ。

他にもHトセトラ・Hトセトラ・・・

さて、何時までも反省をしてても仕方ないよね。

さつきは身の安全のために気にしなかつたけど戦利品をとつこ
かなくちゃ！

わづ、剥ぎ取りだ！

ゴソゴソ

てててーん！獣のしかばねを手に入れた！

剥ぎ取りとは、魔物を倒したときに出すドロップアイテムを頂く
ことをいつのです！

その方法はね、倒した相手から骨やら皮やら肉やらを剥ぎ取る
ではなくてですね。

なんていうか、倒した魔物の核？を攻撃するとひかりが出てくる
のですよ。

そして、そのアイテムを頂くと魔物は光になつて消えていくので
す！

よく解らない？僕も解らない！

でも仕方ないじゃない、そういうモンなんだよ。

まあ、そうして手に入れた獣のしかばねをバックに入れて僕は歩き出した。

油断大敵。実際に体験してよく解った。

しかし、今回の失敗を次に生かし僕は鍊金術士を探すのだ！

いざ行けアリアー！まだ見ぬ世界が君を待っているーなんちやつてつてこれ一度ネタじゃん！

04_復習つて大事！（後書き）

くつー戦闘描写は苦手だ・・・

出来るだけ避けたいところだな・・・

しかし、書かねば上達しない。

これがジレンマといつものか！

05_「なぜか？」

一はやまつてみた

旅立ちから3年程経ち、今や僕は14歳になつた。

この3年間に僕の冒険者レベルもだいぶ上がり、中堅冒険者といつてもいいほどに成長したのです。

剣術もそれなりになつたし、銃だって自作してやつた。

しかし、なんといつても魔法かな。

魔法の扱いが格段につまくなつたんだよ。

いやあ、ある日魔法がなかなかつかみ出来ないことに苦しむしゃくしゃして魔術と組み合わせてみたんだけど、それが大成功！

大きな壁をぶち壊したかのよつとそこからはととん拍子でうまくなつていつたんだ。

今では魔法の腕はもう上級であると自負しているよー

それでも、ある程度強くなつたことだし工房を作成してみよつと思つんだ。

今まで工房は作ってたんだけどね。

もうちょっとランクの高いものがほしいわけよ。

今までの旅で獲た戦利品や、採集物をきちんと保管できる場所が欲しいし、銃なんかの改造や、メンテナンスの出来る工房がさ。

ちなみに現在の陣地作成スキルのランクはC+。

それなりのレベルの魔術師が作る工房と同じぐらいのモノが出来るよ。

工房攻めするにはちゃんとした情報に念入な準備、死の覚悟が必要となるね。

別にこの世界の人たちに見られて困ることは無いけど、スキルランクを上げたいからさ。

全力を尽くすよー！

そうして作った工房の名は『アリアのアトリエ』

まだ鍊金術士じゃないってーの

ーとつせー！

アリアのアトリー（笑）を作つてからの僕は今まで以上に素材の収集に励んだ。

もちろん鍊金術士探しの傍らね。

それでさ、世界中を探し回つても鍊金術の鍊の字も見当たらないつてどうしたことなの？！

影も形も見当たらないよ。

もしかしたら人の全く寄り付かない秘境なりうる場所にいるのかと人が全く寄り付きそうに無いところに行つても、そこにいるのはワイバーンやら黒角獣、はたまたベヒモスなんていつたボス級モンスターばかり！

おかげでレベルは上がり、珍しい素材は手に張つたけどさー全く見つからないんだよ！鍊金術士！！

いつの間にか1年経つてたし！

いくつか技まで編み出しちゃつたよー

もう冒険者としてベテランだね・・・

一いつ歩まで付けられたよ・・・

【踏破】だつてさ。

世界中を歩^踏き、強力な魔物を数多く倒^破してきたことから付いたんだ。

」の間、依頼を請けに行つたとさむ難しきつのを回されたし・

なんだよドリッポン討伐つて・・・

ここよ、やつてやんよーとやけくそになつて挑んでもめたさ。

結果? ウサ晴らしさ出来たと言つておいつかな。

はあ、これだけ探しでも見つからない? とせもしかして・・・

鍊金術士いないのかなあ?

05_「れからうわぬ? (後書き)

今回はかなり短くなりましたが、これは次話以降のためのつなぎといつことによろしくお願いします。

ちなみに・・・

11歳	14	15
冒険者レベル	2	28
鍊金レベル(道具作成)	3	7

06_『アリヤのアトラン』(前書き)

後書きに言ひて訳をひよひよひよひよといふと…

06_『アリ亞のアトロヒ』

—ひらかーしまー！

あれだけ探しでも見つからなかつた鍊金術士。

きっといのだとあきらめることにしました・・・

しかし、師を探すのを諦めたのであって、鍊金術士になるのを諦めたのではないのです。

やつ、血口流でやればいいじゃない！

ところどりで16歳になつた僕は冒険者を半ば廃業して鍊金術士を目指すのです！

幸い工房は人気の無い森に作つたので誰かに邪魔されるところはないでしょう。

工房をちよつと調整しなおして・・・

レツシ鍊金ーー！

しかし当然のことながら上手くこくはずも無く・・・

四苦八苦。レシピが無いことは簡単な調合すらも出来なくて行き詰ってしまったのです。

「魔力の通し方なんかは道具作成スキルを応用すればどうかなるとしても、レシピが無いこと何をすればいいのかもわからないよ・・・」

一人弱音を吐くこともしかたのなことドショウ。

そして僕は聞いた一ピローン

レシピが無いなら作れば良いじゃない！

おこ、レシピ作れるなら今までの悩みは煙りなかつただろうがー、つていう突っ込みは無しよ。

そうだな、正確に表現するならレシピを作るって言つても、レシピを思い出すって言つたほうがいいかな。

わ、ゲームで出てきたレシピを諦て出してしまひるのでー！

とこりひとでちゅうとばかしあ待ちを・・・

ふふふふふ、思い出せねえ。こーん

いや、思に出せる方がおかしいのか？

しかし、これでまた行き詰まつたりやつたよ・・・

くせう、いいアイデアだと思つたんだけどな。

はあ、レシピが魔法の泉のように湧いてくれればなあ・・・

ん？魔法？いや、魔法ではちょっとあれだから魔術で・・・

結果、レシピを抽出することが出来ました！

魔術って言つのは知恵の塊、神秘の塊だからね。

記憶を引き出すのは思つつけば結構簡単に出来たよ。

まあ、鍊金の時間だ！

何をつくるうかな？

まずは簡単に中和剤にヒーリングサルヴでいいかな

どのアイテムを使おうかな？

最初はお試しに特性を考えないで作ろうつか。

中和剤には水、ヒーリングサルヴにはマジックグラスと水でいい

や！

よーし、始めるよーー！

まずは中和剤から。

水に魔力を通してつと、出来上がった中和剤をイメージして・・・

ぐーるぐーる、ぐーるぐーる

できたあーー！

やれば出来るもんだね！

いの調子でヒーリングサルヴも！

最初にマジックグラスをすりつぶして、おっとその間にもう一つのマジックグラスを水に付け込んで、魔力を使って成分を抽出しておかないとね。

ゴーリー、ゴーリー、ゴーリー

つとすりつぶしてとちょっと乾燥させないと・・・

乾燥中に漬け込んだ方を確認とかないといけないや。

うふ、いい感じに成分が出ているみたい。

じゃあ乾燥待ちの間にレシピを既にしておいたつかな。

「ひして、書く」とで大無く覚える事が出来る様になるだひつ
ね。

ん、そろそろいいかな。

うふ。ぱりぱりだよー。

じゃあこの乾燥させたマジックグラスと水を合わせてつと。

ぐるぐる、ぐる、ぐる

よし、できたあーー！

初めての調合、不安もこっぱりあつたけどこれからも頑張ってい
ーーー。

アーラリーニ『アリタのアトコH』の手本を宣伝しまーー。

お姉は現在募集しておつませんーあしからずーー。

06_『アリ亞のアトリエ』（後書き）

短いです。ええ。

し、しかし、これは鍊金術士編のプロローグだから云々かんぬん・・・

れど、調合シーン書きましたがあそこは悩んだ。

ゲームみたいに壺?に入れてかき混ぜるだけで出来るわけが無いのである程度の下ごしらえを入れるということにしましたが全部想像のものなのでね、これつくるならこうこうことしないといけないんじゃないか?つていうことで適当に場面を想像して書かせていただきました。

批判があるなら受け付ける!

とにかくアイデアが欲しいレベル・・・

後作者、メルルのアトリエしかプレイしたことが無いです。よって、調合方法がアーランド式もつと言つならメルル流となつております。

口口ナやトトロのwikiなんかを見てもいるのですがいまいちぴんとせず・・・
況やガールブルヤにグラムナートつて感じです。

許してね!

〇アーティストは常に大きく持たないとね！

—— わざわざ、ばんの「のれんきんじゅつ」。

順調に鍊金レベルを上げております、アリアです。

素材集めはもともとこっぱい保管していたので毎日のよひに調合三昧。

たまーに、足りなくなつてもやうせせせせ、【踏破】とまで呼ばれたこの僕の力でちょちょことね。

もう毎日が充実してすゞく楽しいんだ！

まだ簡単な調合しか出来ないけどね。

それでも、アレンジとか入れたりして、新しい物を作ったり、素材をケチる方法を探したり、手抜きの方法を実践したり、品質向上や効果UPを図つたりなんかしてるんだよ。

考えることがとても楽しいんだ！

楽しくて楽しくて時間を忘れて食事や睡眠を怠つて倒れるほどですね！

うん、誇れることがないのは分かってるよ・・・

はあ、旅してるときも思つたけど、いつのまにか一人つてのは困るんだよね。

倒れても介抱してくれる人がいないとかさ・・・

しゃべる相手がいないってのも結構な問題だね。

一応、食糧なんかを買いに町に下りたときには世間話べらりとはするけどや、頻度が少ないんだよね・・・

じゃあ誰かお手伝いさんとか頼めば?っていつのまは無しだよ。

誰にも邪魔されたくないからね。

だからこそ辺境の人気の無い地にアトリエを作つて、魔術を使つてまでして隠匿してゐるんだし。

まあ、とにかく鍊金術がとても楽しいんだ!

それで、お金も冒険者時代に稼いだのがまだたくさん余つてゐるから、こないだちょっと施設拡張までしたんだから。

何が出来るよになつたと思つ?

ふふ、インゴットが作れるよになつたのです!

クロースは普通に作れたんだけどね？インゴットがまだ作れなかつたんだ。

だから必要な設備に工具をこの間用意してきただのさー。

あ、もちろん自分でやりましたよ？溶鉱炉なんかもね。

いつか装備も自分で作るんだ。

まあ、一流の職人レベルになるにはどれだけかかるかわからんないけどさ。

僕には若返り薬なんかのチートレシピがあるからね、時間はいくらでもあるのさー！

まだ製作不可能だけど・・・

作れないまま一生を終える可能性もあるけど・・・

とりあえず作ると仮定して話を進めるんだよ！

それで、装備をさ、自分で作るって今言つたじゃない？

それにはちゃんとした理由もあるんだよ。

それはね、錬金術で作った特殊な特性のついたインゴットを世に出すのが嫌だからさ！

別にケチなわけじゃないよ。

騒がれて僕の邪魔になるのが嫌なだけ。

それだつたら多少面倒でも自分で作る方がいいと思つたんだ。僕はね。

目指すは何でも作れる万能の錬金術士！

アテオリア・カテーライト頑張ります！

アテオリア・カテーライト

男

06 07にかけて

年齢：16 17

冒険者レベル：43 44

錬金レベル：11 19

07_目標は常に大きく持たないとね！（後書き）

05・06と短いのを連続投稿して今話もまた短くなつてしまいま
した・・・

何故長くかけないのか？

これからも精進していきたいですね

—おうかん

初級鍊金を極め、いまや中級に臨んでおります。アリアです。

今日は既に一度作ったことのある「知恵者の辞典」を大幅アレンジしてみたいと思うのです。

どうするのか、それは！

僕とリンクを結び、僕の知識、記憶、経験などあらゆることを書に転写するのです！

魔術を使って自身の記憶を取り出せる僕が何故そんなものが必要なのか、ですか？

いちいち調合のたびに魔術を使うのはめんどくさいからです！！

そ、それだけじゃないのですよ・・・

なんといってもこの方法を使えば他人の知識をも識るしことが出来るのです！フフフ・・・

例えば、鍛冶屋のおっちゃんを眠らせラゲフングエフン・・・もといおっちゃんに協力してもらい書に鍛冶の仕方を載せます。そして書と僕をリンクで結ぶことでおっちゃんのベテランの知識、経験なんかを全て頂けるという寸法です。

するくはないのです。

これもまた一つの弟子入りという奴なのです。

証拠も残さず、足が付かなければ何の問題も無いのです。

作ったものを見るつもつも無いので営業妨害にもならないのです。

他人には全くこれっぽちも興味が無いので、プライバシーの侵害をするつもりも無いのです。

よし、^{武装}言い訳完了！

といふことで作るのです。

えーと、材料材料・・・

アレンジに以前作ったこいつを入れて・・・

後はここつでいいのかな・・・

よーし、始めるよ！

とりあえず知患者の辞典を作る要領で、魔術を使って・・・

＼ただいま鍊金中　しばらくお待ちくださいこ

よし、次はこの魔法の絵の具を・・・

＼ただいま鍊金中　しばらくお待ちくださいこ

うそ、いい感じ。じゃあ、後はこれを・・・

＼じつこようですがただいま鍊金中です　申し訳ありませんがしばらくお待ちくださいこ

よーし、最後に魔術で・・・

＼本当に申し訳（ゝゝゝ）

出来た――――！

いやー、疲れたよ・・・

え？ 8日も調合に時間かかったの？！

ま、まあ知恵者の辞典自体が3日かかるしね・・・

アレンジしてたらこれぐらいかかるかもおかしくはないか・・・

ただ、予想してたよりかは難易度高くなかったな・・・

ま、そんなことばっかりでもここのですよー。

今は機能のチェックタイムなのです。

調査中既にリンクは結んでいたので転写は済んでいはずなので
すが・・・

パラパラ

む、むむむ、むむむむむ！？

よく出来てますのです。

おや、これは？

確かに僕は生前暇なときこいつこいつ調べたりしてましたのです。

しかし、こんなことまだ引き出せるのか。

ほひ、ほひほひ。

なるほどなるほど・・・

僕はなんですか、ばらじいものを作ったのでしょうか！

なんとこの書、一度チラッと見たものまで詳細に記されているのです！

頭に入つてないようなものまで転写できるなんて…！

僕は擬似瞬間記憶能力を手に入れてしまったのですよ…！

Wikiなどを流し視していた事がある僕としてはもう最高なのがWikipediaなどを見ていていたものまで転写されているなんてです！

濫読していたものまで転写されているなんて！

興奮が冷めないです…！

この書の名前どうしようかな…・・・

ペジッと来ました！

『王冠の書』これでいきます！

アテオリア・カテライト

男

07 08 にかけて
年齢 : 17 18
冒險者レベル : 44
鍊金レベル : 19 38 45

08_あくまで練金術士（後書き）

1週間放置したことこの短い、この出来・・・

デフォルトです！

そして手抜きはしていません！
手抜きじゃないのです！！

今後もこのよつたな感じになりますが良いですか？

精進はやめつつですが進歩しないのです・・・

が、まあ頑張るのでよろしくお願ひします！

09 最終目標？

一けんじやたいむはいりまーす

つこに、つこにーのときが来た。

鍊金術士が最終目標とするほどの神秘の調合をするときが！

そう、賢者の石を作るのです！！

賢者の石

一般によく知られた賢者の石は卑金属を金などの貴金属に変えたり、人間を不老不死にすることができるといつ。靈薬としてのエリクサーと同様のものとして考えられる」ともある。 byWeki

となつてゐるけれど、このアトリエ世界での賢者の石はちょっと効果が違つ。

とても密度の高い神秘性を秘め、魔術の最高の媒体になるのだけれど、おもに中和剤／宝石類／薬の材料／鉱石類／エリキシルの材料となる万能といつても良いほどの多様性にこそ、その価値がある。

そして、賢者の石を使い調合し、生み出される物が金なり不死薬だつたりするのです！

まあ、不死薬については僕が材料の一つとして賢者の石を使うことを決めているからこそいえるのだけど・・・

とにかく作つてみないことには始まらない。

魔術的因素も取り入れた僕の調合でアトリー世界通りのものが出来るかどうかが微妙なんだ。

これまでに作ってきたものたちもたまにゲームとは効果が違つてたりしたしね。

まつたく、それが全部プラス要素ならよかつたんだけだな。

良いものが出来れば悪いものが出来るときもある。

幸い、個別に違うだなんて不安定なものではなく、種類別だったからそういうものは次回から気をつければいいだけだからいいけどさ。

だいたい説明できましたしね。

何時までも不安定なままでするわけ無いでしょ。

確實ではないけど大体あたりをつけているんだよ。

食べ物関係はあまり変化なし／薬関係はたまに危ないけどおおむね効力up／爆弾は威力up／材料系は用途しだいとなれば大体解るさ。

そう、基本的に強化されている！

薬の場合、行き過ぎれば毒になつたりするじゃない。そういうことなんだよ。

でも薬、そう薬が不安定なのがいけないんだよね・・・

僕が目指してるのはたぶん不死薬じゃないか。そう、不死薬！

これを強化したらどうなるのかっていうのがいまいちわからないんだよねえ・・・

もしかしたら強化が起きないかもしれないし、マイナスされるかもしれない・・・

いつそ、魔術要素いれるのやめようかと思つけど・・・

もういいや！不死薬作るときて考えればいいか。

と開話休題！
危介」との先送り

とりあえず今から作る賢者の石を不死薬の材料にすると決まったわけじゃない。

効果が気に入らなかつたら普通に調合しなおせばいいしね。

今回は魔術要素込みで作るよー！

はあ、不死薬で実験出来れば楽なんだけどな・・・

——（r y

さて、始めます。

材料は特殊な加工方法でのみしか使えない「無価値な岩」、エリキシルとして「豊穰の土」、そして「原初の土」、「世界靈魂」の4つを基本材料に魔術的要素を取り入れるためにいくつかのものを用意します。

すべて最高品質で調合を行いますよ。

少しずつ確実に作業を行いましょうか。

ただいま調合中です

ついにできた！作業期間24日——！

不眠不休で僕頑張った！超頑張った！！

効果も結構いい感じに安定してるし、これはもう完全に成功だね！

よし、この調子で他の素材アイテムを調合して不死薬にとりかかるぞ！

アテオリア・カテライト

男

08 09にかけて

年齢：18 20

冒険者レベル：45 48

鍊金レベル：38 48

09_最終目標？（後書き）

たくさんの文章が省略されました。（ナリコリヒトシヒトコトアカ
い）

もともと文章レベル低いのにスランプになんてなるんだね・・・

わで、主人公の口調がだいぶ乱れていますが半分くらいはわざとです！

半分くらいは！！

わつ一気にいろいろすりあつ飛ばして他のキャラクタを出すべきか・・・

とつあえず不死薬作らせたらプロフイール出すかな・・・

ひへ、早くヒロイン出せるよひこじよひ・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3988v/>

Alchemist farthest ~最果ての錬金術師~

2011年8月22日16時11分発行